
5 付属資料

- 策定の経過
- 岡谷市総合計画の策定に関する条例
- 岡谷市基本構想審議会委員公募要領
- 岡谷市基本構想審議会委員
- 岡谷市基本構想審議会に対する市長の諮問
- 岡谷市基本構想審議会から市長に対する答申
- 市民等の意見募集(パブリックコメント)に寄せられた意見
- 岡谷市議会 岡谷市基本構想特別委員会委員

策定の経過

年 月 日	説 明
平成29年 8月 1日	行政管理委員会において策定方針を決定
8月25日	まちなかアンケート(市内大型商業施設)
9月 9日	まちなかアンケート(市内大型商業施設)
9月21日	市民アンケート(18歳以上の市民1,000人/～10月6日)
10月 1日	未来の岡谷を創るプロジェクトチーム 明日の岡谷を市民とともに考えるプロジェクトチーム 発足
11月 9日	各種団体等へのインタビュー(随時)
11月27日	中学生まちづくりアンケート(市内4中学校2年生394名/～12月6日)
平成30年 1月 7日	新成人まちづくりアンケート(平成30年成人式出席者)
2月 1日	高校生まちづくりアンケート(市内3高校2年生550名/～2月16日)
2月20日	「岡谷市総合計画の策定に関する条例」を市議会へ議案提出し可決
2月21日	「岡谷市総合計画の策定に関する条例」公布・施行
4月10日	岡谷市総合計画策定推進本部 設置 以後、本部会議を5回、委員会を6回、幹事会を7回開催
4月23日	各種団体等へのインタビュー(随時)
5月25日	市民アンケート(18歳以上の市民1,000人/～6月8日)
6月22日	市議会が岡谷市基本構想特別委員会を設置し、第1回委員会を開催
6月26日	21区市政懇談会「まちづくりふれあいトーク」(～8月10日)
7月30日	総合計画の理事者ヒアリング
8月10日	岡谷市総合計画策定推進本部 第3回本部会議において総合計画(諮問案)決定
8月24日	第2回岡谷市基本構想特別委員会(諮問案報告) 岡谷市基本構想審議会委員委嘱 第1回岡谷市基本構想審議会(第5次岡谷市総合計画の諮問) パブリックコメント(～9月21日)
9月26日	第2回岡谷市基本構想審議会
10月 5日	第3回岡谷市基本構想審議会
10月12日	第3回岡谷市基本構想特別委員会 第4回岡谷市基本構想審議会
10月16日	第4回岡谷市基本構想特別委員会
10月19日	第5回岡谷市基本構想審議会
10月24日	第5回岡谷市基本構想特別委員会
10月26日	第6回岡谷市基本構想審議会
10月31日	第6回岡谷市基本構想特別委員会
11月 1日	第7回岡谷市基本構想審議会
11月28日	第8回岡谷市基本構想審議会(答申)
12月 7日	岡谷市総合計画策定推進本部 第4回本部会議において第5次岡谷市総合計画(最終案)決定
12月13日	第5次岡谷市総合計画の基本構想を市議会へ議案として提出 基本構想特別委員会へ付託(市議会閉会中の継続審査となる) 第7回基本構想特別委員会開催
平成31年 1月 9日	第8回基本構想特別委員会開催
1月17日	第9回基本構想特別委員会開催
2月12日	市議会が第5次岡谷市総合計画の基本構想を議決
3月14日	岡谷市総合計画策定推進本部 第5回本部会議において第5次岡谷市総合計画前期基本計画を決定

岡谷市総合計画の策定に関する条例

平成 30 年 2 月 21 日

条例第 1 号

(趣旨)

第 1 条 この条例は、本市の市政運営に係る最上位の計画である岡谷市総合計画（以下「総合計画」という。）を策定することに関し、必要な事項を定めるものとする。

(定義)

第 2 条 この条例において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 総合計画 将来における本市の目指すべき姿と進むべき方向性についての基本的な指針を定めるものであって、基本構想、基本計画及び実施計画からなるものをいう。
- (2) 基本構想 本市の長期的なまちづくりの理念と、その理念を実現するための基本目標及び政策からなるものをいう。
- (3) 基本計画 基本構想の実現を図るための基本的な施策を体系的に示すものをいう。
- (4) 実施計画 基本計画で掲げる施策を実現するための事業を示すものをいう。

(総合計画の策定)

第 3 条 市長は、総合的かつ計画的な行政運営を図るため、総合計画を策定するものとする。

(策定等の手続)

第 4 条 市長は、総合計画を策定し、変更し、又は廃止しようとするときは、岡谷市市民総参加のまちづくり基本条例（平成 16 年岡谷市条例第 20 号）に基づき、市民の意見を反映するよう努めるものとする。

2 市長は、基本構想を策定し、変更し、又は廃止しようとするときは、第 9 条に規定する岡谷市基本構想審議会に諮問するものとする。

(議会の議決)

第 5 条 市長は、前条に規定する手続を経て、基本構想を策定し、変更し、又は廃止しようとするときは、地方自治法（昭和 22 年法律第 67 号）第 96 条第 2 項の規定により、議会の議決を経るものとする。

(総合計画の公表)

第 6 条 市長は、総合計画を策定し、変更し、又は廃止したときは、速やかにこれを市民に公表するものとする。

(市政運営の推進)

第 7 条 市長は、総合計画に基づき市政を運営するものとする。

(総合計画の進捗管理)

第 8 条 市長は、総合計画の進捗状況を管理し、その結果を市民に公表するものとする。

(岡谷市基本構想審議会の設置等)

第 9 条 基本構想の策定、変更又は廃止等に関し、市長の諮問に応じて必要な事項を調査審議するため、岡谷市基本構想審議会（以下「審議会」という。）を設置する。

2 審議会は、委員 20 人以内をもって組織する。

3 委員は、知識経験者、公募による市民等のうちから市長が委嘱する。

4 委員の任期は、2 年とし、再任を妨げない。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委任)

第10条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、公布の日から施行する。

(経過措置)

2 この条例は、この条例の施行の日以後に策定する総合計画について適用し、同日前に策定した総合計画については、なお従前の例による。

(岡谷市基本構想審議会条例の廃止)

3 岡谷市基本構想審議会条例（昭和52年岡谷市条例第19号）は、廃止する。

岡谷市基本構想審議会委員公募要領

1 目的

この要領は、市政の意思形成過程に市民等が直接参加する機会を確保するため、本市の長期的なまちづくりの理念と、その理念を実現するための基本目標及び政策について、岡谷市総合計画の策定に関する条例第9条の規定に基づき設置した岡谷市基本構想審議会の委員を市民等から公募することに監視、必要な事項を定めるものとする。

2 公募委員の数

委員総数 20 人のうち、公募による委員は若干名とする。

3 委員の任期

岡谷市総合計画の策定に関する条例第9条の規定により、委員の任期は2年とする。

4 応募資格

応募できる者は、次の各号のいずれにも該当する者とする。

(1)市内在住者

(2)応募日現在に他の審議会等の委員となっていない者

(3)本市の特別職及び常勤の一般職員並びに議員でない者

5 応募方法

応募しようとする者は、応募申込書(様式1)に必要事項を記入のうえ、小論文を添えて企画課へ提出するものとする。

6 小論文のテーマ

「岡谷市のまちづくりについて」(800字以内)

7 周知方法

広報おかや、岡谷市ホームページなどにより実施

8 募集締切

平成30年7月20日(金)

9 その他必要事項

特になし

岡谷市基本構想審議会委員

(敬称略/五十音順)

会 長	横 内	文 雄	(岡谷市区長会 会長)
副会長	太 田	博 久	(岡谷市民憲章推進協議会 事務局長)
副会長	高見澤	恒 子	(岡谷市女性団体連絡協議会 顧問)
	今 井	誠	(社会教育委員の会議 会長)
	太 田	深 穂	(一般公募)
	小 口	泰 史	(岡谷商工会議所)
	笠 原	新太郎	(岡谷市商業連合会 会長)
	上 沼	隆 弘	(岡谷市消防団)
	唐 澤	剛	(岡谷市 P T A 連合会 会長)
	小 林	妙 子	(一般公募)
	齋 藤	博 子	(岡谷市地域福祉支援会議)
	薩 摩	建	(岡谷市民新聞社 代表取締役社長)
	武 田	彰	(産業別労働組合 J A M T P R 労働組合 中央執行委員長)
	中 畑	聖二郎	(公益社団法人 諏訪圏青年会議所)
	中 村	進	(岡谷市金融団 幹事)
	中 村	文 明	(岡谷市観光協会 会長)
	中 山	昇	(国立大学法人 信州大学 工学部 准教授)
	新 田	隆 史	(一般公募)
	林	幸 夫	(岡谷市連合壮年会)
	山 崎	舜 次	(環境市民会議おかや 会長)

30企第34号
平成30年8月24日

岡谷市基本構想審議会
会長 横内 文雄 様

岡谷市長 今 井 竜 五

諮 問 書

岡谷市総合計画の策定に関する条例第4条第2項の規定に基づき、第5次岡谷市総合計画基本構想及び前期基本計画について諮問申し上げます。

平成30年11月28日

岡谷市長 今 井 竜 五 様

岡谷市基本構想審議会
会長 横 内 文 雄

第5次岡谷市総合計画基本構想及び前期基本計画について（答申）

平成30年8月24日付30企第34号をもって貴職から諮問されました第5次岡谷市総合計画基本構想及び前期基本計画について、本審議会は慎重審議の結果、別添のとおり答申いたします。

(別 添)

我が国は、人口急減という深刻な課題に直面するとともに、これまでに経験したことのない超高齢社会を迎えようとしています。

このような状況にあっても、地方自治体には、行政サービスの提供を維持し、市民の暮らしを守っていくことが求められており、岡谷市においても例外ではありません。さらに、年々多様化・複雑化・高度化する市民ニーズへの対応も求められていることから、私たち市民は岡谷市の持続可能な行政運営に高い関心を寄せています。

今回、諮問された第5次岡谷市総合計画については、将来都市像である「人結び 夢と希望を紡ぐ たくましいまち岡谷」の実現に向けた、行政全般にわたるさまざまな基本的政策が示されています。

しかしながら、人口減少が続くなかで、市税をはじめとした歳入は減少する見込みとなる一方、歳出では社会保障関係経費や公共施設の老朽化に伴う維持管理費が増加するため、中長期的には財源不足が見込まれることから、政策を推進するために必要となる財源の確保は、今後さらに厳しくなることが予想されます。

このため、前例や常識にとらわれない柔軟な発想をはじめ、社会経済情勢の変化を的確にとらえたスピードある対応や、選択と集中による経営資源の最適な分配などにより政策を推進していただき、安定的かつ継続的に行政サービスを提供していただくようお願いいたします。

私たち市民も、人口減少という現実を受け止め、まちづくりの主役であることを自覚するとともに、市政に対する関心を深め、市民として果たすべき役割を認識し、市と協力しながらまちづくりに取り組むことが必要であります。

そのためにも、市の具体的な取り組みを、市民に分りやすく提示していただくとともに、幅広い世代の意見把握に積極的に努めていただくようお願いいたします。

本審議会では慎重に審議を重ねた結果、市民の幸せな暮らしの実現と、岡谷市のより一層の発展を願い、次のとおり意見・要望を添えて答申といたします。

意 見 ・ 要 望 等

■基本構想について

1. 将来都市像の前文については、人口減少に対する姿勢を明確に打ち出すため、子育て支援や健全財政に関わる記述を盛り込んでいただくよう要望いたします。
2. 将来都市像の解説については、『「人」と「もの」』や、『「人」と「こと」』という言葉が具体的に何を指すのか、イメージが市民に明確に伝わるよう、より丁寧な説明をお願いいたします。
3. 「岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン」を見出しとして、将来的に目指す人口を記述されておりますが、見出しだけを見た場合、伝えたい内容がわかりにくいため、わかりやすい表現にされるよう工夫をお願いいたします。
4. 「2060年の将来展望人口4万人台の維持」に向けて取り組んでいくという考え方は理解できますが、基本構想の目標としてイメージしにくいことから、2060年に4万人台の維持を実現するため、10年後に維持すべき人口を明示することが必要であると思います。
5. まちづくりの基本目標は、将来都市像が「人」を中心としているため、諮問案のとおり並び順が適切であると思います。

■前期基本計画について

【全般的事項】

1. 具体的な取り組みについては、各施策の個別計画に記載されているとのことですが、その点についての説明がないことから、市民にとってわかりやすい説明の記載を要望いたします。
2. 予算、人、時間が限られる中で、5年間という期間を捉えたときに、特に注力して取り組むべき施策があると思われることから、メリハリをつけた施策展開を要望いたします。
3. 施策ごとに設定する成果指標について
 - (1) 施策全体の成果を表す指標として適切な指標となっているか、再度、確認されることを要望いたします。
 - (2) 数値の算出方法や根拠をはじめ、指標の捉え方や考え方などの内容について、説明を記載されるよう要望いたします。
 - (3) 目指すべき姿が実現したかどうかを把握するためには、前期5カ年の間、同じ指標を用いる必要はないと思います。目標の達成状況や、社会経済情勢の変化に応じた柔軟な見直しをお願いいたします。

【基本目標 「ともに支えあい、健やかに暮らせるまち」】

1. 少子化が進む中では出産前後の取り組みについても大切であると思います。男女の出会いや、結婚、出産に関わる状況を把握することができる成果指標を設定し、大きな課題として捉えた取り組みをお願いいたします。
2. 認知症対策の重要性は今後さらに増すことから、具体的な取り組みの記述をしていただきますようお願いいたします。また、成果指標については、設定の背景がわかる説明の記述をお願いいたします。
3. 避難行動要支援者の登録100%を目指して取り組み続けることが大切だと思います。避難行動要支援者登録台帳の活用状況を確認して、取り組みの更なるレベルアップをお願いいたします。
4. 第4次岡谷市総合計画で謳われている「自分の健康は自分でつくり守る」は、県等のスローガンでも使われていることから、言葉として残していただくようお願いいたします。また、岡谷市は健康診断の受診率が低いため、市民に周知を図り、受診率向上のための取り組みをお願いいたします。
5. 地域医療体制の推進については、開業医の高齢化が進む中で、医療従事者の養成などを含めて、どれぐらいの充実度を目指すのか目標を設定して取り組みを行っていただきますようお願いいたします。
6. 医師確保については難しい面があるかと思いますが、産婦人科での分娩再開に向けて引き続き関係機関等への働きかけをお願いいたします。

【基本目標 「未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち」】

1. 学校設備については、エアコンの設置など、児童生徒の体調管理にも配慮した教育環境の整備に関する取り組みをお願いいたします。
2. 学校生活における児童生徒の小さな変化を的確に捉えることができる教員の育成と、そのために必要な教職員研修の充実を図っていただくよう要望いたします。また、教職員の負担軽減に関する施策展開をお願いいたします。
3. いじめや不登校は大きな課題であります。この課題に対する具体的な取り組みは、個別計画の中に盛り込まれているとのことですが、その対策については保護者の関心も高いことから、基本計画の中にも明記していただくよう要望いたします。また、いじめの根絶や不登校への適切な対応を図るため、教職員研修の充実をお願いいたします。

4. 少子化の進展と学校施設の老朽化が進む中で、将来的な小中学校の統廃合は避けられない課題であります。今後5年間について、小中学校の統廃合は実施しないとのことでありますが、将来に向けた検討については随時進めていただくようお願いいたします。
5. 図書館の利用実態を把握する際は、図書の貸出冊数ではなく、入館者数により把握されるようお願いいたします。
6. 岡谷市は、カノラホールをはじめ、蚕糸博物館や美術考古館のほか、イルフ童画館など、他に誇れる文化施設が充実しています。それぞれの施設の認知度を高めるため、さらなる情報発信に努めていただくようお願いいたします。
7. 文化施設の利活用を促進するため、各施設を拠点として活動されている団体等の活動実態の把握に努めるとともに、団体間の連携を図っていただくようお願いいたします。

【基本目標 「人が集い、にぎわいと活力あふれるまち」】

1. 市内では経営者の高齢化が進み、小規模企業を中心に廃業を検討する企業が増えており、すべての業種において、事業承継に関わる問題があると思います。各事業所が有するさまざまな経営資源を次世代に引き継ぐため、実態把握をはじめ、技術承継や事業承継に努めていただくようお願いいたします。
2. 市内企業の多くは、小規模零細企業であります。こうした企業をこれからどうするかが一番大きな課題と思われまますので、明確な方向性を出していただくようお願いいたします。
3. 景気の回復により人手不足が生じているなかで、外国人労働者が岡谷の工業を支えているのも現実であります。計画の中で、人手不足解消に向けた外国人労働者の受け入れについて考慮していただくようお願いいたします。
4. 市民アンケート等の結果を見ると、商業の振興に期待が寄せられていることがうかがえます。商業・サービス業の振興では個別計画がないことから、商業の活性化に向けた個別計画を策定していただくよう要望いたします。
5. 商業支援施策の目的は、地域店の売上が伸びていくことがあるべき姿であると考えます。成果指標として年間販売額が設定されていますが、地域店の売上を把握することができれば、その数値を成果指標とされるよう検討をお願いいたします。
6. 諏訪湖の湖内環境の改善については、県と湖周2市1町との連携による取り組みが必要であり、岡谷市だけ掲げても活動ができるものではありません。具体的な取り組みについても記載されるよう検討をお願いいたします。
7. 岡谷ブランドを発信するにあたり、旧市役所庁舎は、歴史的建造物としてふさわしい建物であると考えます。有効活用に向けて取り組んでいただくようお願いいたします。
8. ICTの進展にともない、新たな情報発信ツールが次々と登場しています。情報発信の研究と実行に注力していただくようお願いいたします。
9. 新たな観光資源を発掘するためには、外部の視点が重要です。訪日外国人観光客が年々増加していることから、外国人の方の協力による、新たな観光資源の発掘や情報発信にも取り組んでいただくようお願いいたします。

【基本目標 「安全・安心で自然環境と共生するまち」】

1. 市民のなかでも、特に高齢者や一人暮らしの世帯では、防災無線や防災ラジオを通じて緊急情報等を得ています。災害に関する情報が確実に伝達されるよう、市内における防災ラジオの受信状況の把握に努めていただき、どの世帯でも受信することができるようお願いいたします。
2. 高齢者の方々に対する安否確認や避難誘導などについては、21区にそれぞれ設置された地域サポートセンターの活用を図っていただくようお願いいたします。
3. 諏訪湖に繁茂するヒシの除去については、県をはじめ諏訪市や下諏訪町のほか、諏訪湖漁業協同組合などと連携し、根本的な対策に取り組んでいただくようお願いいたします。

4. 市外より転入される方から「土地の取得に関する助成があると嬉しい」との声を良く聞きます。人口減少が進む中で、転入促進を図ることは重要な取り組みの一つであるため、支援施策の検討をお願いいたします。
5. 居住環境の充実については、住宅の耐震化率に関する目標だけでなく、住宅政策という観点からも成果指標を定めて、取り組みを進めていただきますようお願いいたします。

【基本目標「快適な生活を支え、住み続けたいまち」】

1. 岡谷駅周辺の土地利用については総論的な考え方ではなく、目に見える形となる、具体的な検討を進められることをお願いいたします。
2. JR中央本線の高速化、複線化については、多くの方が望んでいます。これまでも、国やJRに対して陳情されてきていますが、なかなか展望が開けません。難しい問題ではあると思いますが、引き続き将来を見据えた取り組みをお願いいたします。
3. シルキーバスの利用促進については、より積極的なPRに取り組んでいただくとともに、高齢者の利用増加が見込まれることから、親切な案内と説明に努めていただくようお願いいたします。また、停留所に屋根を設置するなど、高齢者に優しいまちづくりに向けて取り組んでいただくようお願いいたします。
4. 上下水道は、重要な生活基盤の一つであります。今後、発生が予想される南海トラフ地震や糸魚川 - 静岡構造線断層地帯地震などに備えるため、上下水道の耐震化を計画的かつ早急に進めていただくをお願いいたします。
5. 上下水道の経営では、将来にわたり安定した事業運営を行うため、上下水道料金について、他市町村との比較も含め、日頃から積極的な情報発信を行うとともに、市民理解を得た上で、必要に応じた計画的な料金改定を実施し、適切な料金設定としていただくをお願いいたします。

【基本目標「みんなでつくる、確かな未来を拓くまち」】

1. まちづくりのための新たなアイデア等は、市民の中から見つかることもあると思います。岡谷市では市民総参加のまちづくりに取り組んでいますが、既存の取り組みだけではなく、地域おこし協力隊の活用や市内の若者の協力を得る機会を設けるなど、新たな取り組みについて研究を進められるようお願いいたします。
2. 市内にはさまざまな団体があります。各種団体が、団体の特徴を活かしながら、まちづくりに取り組める場や挑戦できる機会の創出に取り組んでいただくようお願いいたします。
3. ICT利活用の推進については、専門的な用語が多いため、市民にとってわかりやすい用語解説の記載をお願いいたします。
4. 公立諏訪東京理科大学については、岡谷市に関心を寄せられている先生がおり、まちづくりにも参画したいとの声も聞いています。岡谷市としても、こうしたチャンスを積極的に活用していただくようお願いいたします。

(参 考)

審議の際に出された主な意見・要望等

■序論

- ・『「まち・ひと・しごと」の創生にかかわる取り組みを包含する』とあるが、総合計画と総合戦略の整合性（それぞれの計画の目的、役割分担）はどのように捉えればよいのか。
- ・カタカナで「ムラ」と表記されているが、表記の仕方としてこれで良いのか。
- ・グラフ表記に、構成比(%)を追加できないか。
- ・「多様な主体」とあるが、「主体」についてどのように考えたら良いのか。

■基本構想について

【まちづくりの基本理念について】

- ・市民憲章は普遍的なものであり、格調も高いが、時代にそぐわない部分もあり、改正する時期に来ていると思われる。（市民憲章推進協議会に聞くべきことかもしれないが、まちづくりの理念になる大事な点であるため、あえてお伺いしたい。）
- ・市民憲章については色んな思いがあると思うが、今の時代でも決して古くないと思っている。

【将来都市像について】

- ・1行目の「福祉」は、高齢者福祉のイメージがある。2行目で「人口減少」との表記があることから、子どもたちに対する施策を将来都市像の中に入れたらどうか。
- ・「施策の大綱」では「2 福祉の推進」として「地域福祉の推進」から「障がい者(児)福祉の推進」まであり、一般の方にはこうした「福祉」と捉えられてしまう。行政活動全体という点は理解できるが、文言として入れた方が良いのではないか。
- ・第4次岡谷市総合計画では「健全財政」の文言があったが、第5次岡谷市総合計画には表記されていない。第4次岡谷市総合計画同様に表記したらどうか。
- ・『「人」と「もの」』や『「人」と「こと」』について、「もの」や「こと」とは具体的に何を指すのか？わかりやすくイメージできる説明が必要であると考えます。

【岡谷市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンについて】

- ・表題について、地方創生のために人口ビジョンを策定した経過があるので、それを用いたいという意図は理解できるが、唐突感がある。表題は第4次岡谷市総合計画同様に「将来人口の想定」とし、人口ビジョンに関しては副題として表記したらどうか。
- ・「2060年4万人台の維持」に向けて取り組んでいくことは理解できるが、第5次岡谷市総合計画の目標として適切なものか。
- ・2060年4万人台維持を実現するため、10年後に維持すべき人口を明示したらどうか。
- ・資料の総合戦略には、2060年の人口推計として4つの数字が並べられているが、市の長期財政計画の基礎としている人口は、どの数字を用いているのか。

【土地利用の構想について】

- ・以前あった「西山開発」はどうなったのか。

【まちづくりの基本目標について】

- ・第4次岡谷市総合計画とずいぶん順番が変わっているが、意図するところを教えてください。
- ・限られたお金・人・時間という中で、5年間というものを見たときに、特に注力すべきものはあると思う。ある程度メリハリを付けていくべきであり、個人的には産業振興が力をいれるべき基本目標だと思う。メリハリを出すことは難しいか。

- ・第4次岡谷市総合計画の3つの重点プロジェクトが継続されるということによいか。
- ・並列的に考えているとのことだが、かなり検討をして入れ替えているのではないかと感じる。アンケート結果云々ではなく、意図があるのか。
- ・「みんなでつくる、確かな未来を拓くまち」が追加になっている。これが一番上にあっても良いのではないか。
- ・「拓く」という言葉を用いた意図は、市民全員に読んでもらおうとすれば、平易な言葉が良いと思う。
- ・全てが大事なこと。強いて順序付けするなら、この順番だと思う。
- ・説明しやすいのはこの順番。子育てをして、学校の教育を受けて、その後産業界に出て行くという、人生のプランが現われている。
- ・全て大事だが、子どもをトップに置いておけば問題ない。
- ・将来都市像を踏まえればこの順番。「人結び」という「人」が中心だということを強調しているのが今回の将来都市像だと思うので、むしろこの順番でないといけないと思う。
- ・子どもを育てながら教育をしていただいて、恩返しに戻ってきて仕事を探してもらおうという形を思えば、このままの形がストレートでいいと思う。
- ・人生の流れを考えればこれが一番妥当。第4次岡谷市総合計画から関わった方は想いが強いかもしれないが、第5次岡谷市総合計画だけみた場合は、この流れが一番マッチングしていると思う。
- ・あえてアンケート結果を掲載しているということは、それを含んでいる部分である。
- ・行政サイドで熟慮した結果、この順番になっていると思う。
- ・第4次岡谷市総合計画の順番の方が胸に落ちる
- ・政策、施策の番号を消すなど、表記の仕方について検討をすればよい。

■前期基本計画について

【基本目標 ともに支えあい、健やかに暮らせるまち】

- ・第4次岡谷市総合計画のところに「自分の健康は自分で守る」という言葉がある。県等のスローガンでも使われている。「主体的な心身の健康づくりを進める」ということと同じかと思ったが、言葉として残していただきたい。
- ・岡谷市の健康診断の受診率は非常に低い。施策の大綱の中に岡谷の受診率が低いということ、受診率の向上の部分を入れていただきたい。
- ・課題では男女の出会いや結婚について触れているが、主な取り組みでは具体的に出てこない。第4次岡谷市総合計画、総合戦略では、出生率が一番大きな課題としている。掲げておいたほうがいいのでは。
- ・出産の前段階についてのKPIは設定する考えは。
- ・主な取り組みに認知症に対する取り組みを記述して欲しい。
- ・避難行動要援護者登録台帳の活用状況を確認し、レベルアップを図る必要があるのではないか。
- ・避難行動要支援者の登録はいつまでたっても100%にはならないと思う。各区で事情があるので仕方が無いが、100%を目指すということをずっと続けていくということが大切。
- ・KPI（要介護認定率）は減少させるほうがよいのでは。
- ・KPIの設定について設定理由のわかる記述を。
- ・課題の2つ目については地域福祉のほうではないか。
- ・計画と目的があるのに目標が無いのは不思議な感じ。難しいのはわかるが、設定できるようであれば設定を。
- ・産婦人科もきちんと健全なものを確保していただきたい。

【基本目標 未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち】

- ・教育要覧に5つの重点が表現されているが、そのまま基本計画に盛り込むことはできないのか。

- ・学校設備ではトイレの水洗化、エアコンの設置等環境に関する施策、教育指導の充実では、教職員研修の充実を図り、児童生徒が発信するキャッチする高いアンテナを持てる教職員であって欲しい。
- ・いじめや他の要因による不登校を極力少なくするための教職員研修の充実を図ってほしい。
- ・教職員の負担軽減に関する施策展開をお願いしたい。
- ・いじめや不登校の問題について記載がない。いじめや不登校については大きな課題だと思っている。ある程度言葉にして出して。個別計画でやるという文面も出てこない。
- ・小中学校の統合についてまったく触れられていない。少子化、施設の老朽化の中で、この問題は入れるべき。
- ・この段階から、未来に対する検討していく何かを盛り込んだほうが良いと思う。
- ・K P I の学校満足度についてどのように設定されているのかわからない。一般の方が見たときにわかるように注記していただきたい。
- ・小中学校の統廃合については、5年くらい前から出してもらったほうが保護者としては余裕を持って考えられる。
- ・部活動についてはスポーツの推進とも関わる点もあり難しいと思うがよろしくをお願いしたい。
- ・K P I として図書の貸出冊数とされているが、本来は純粋な入館者数で評価するべき。カウントできるように対応すべき。
- ・人口を増やすためにも情報発信は必要。もう少し発信に力を入れるべき。
- ・地域の図書館が「知」の拠点としての機能を期待されている。図書館には力を入れていくとのことなので、それがわかる取り組みをいれたほうが良いと思う。
- ・小さな学校でも、本は同じようにそろえるべき。
- ・公共図書館との連携などを考えていただきたい。
- ・小学校、保育園のスケート教室について回数をふやしていただきたい。
- ・課題の部分で蚕糸博物館の認知度を上げているが、主な取り組みの部分では企画、発信しかない。一番の問題が認知度を高めることならば主な取り組みにもっと記載すべき。
- ・イベントは面白いとSNSで拡散する。アイデアを貰いながら面白い仕掛けを増やしていく努力が必要ではないか。
- ・カノラホールについて、参加と連携という意味では、音楽の市民団体や芸術の市民団体との連携、あるいは参加ではなく参画ということをやすべきではないか。
- ・アンケートで、カノラホールを誇る施設と回答している人が大勢いる。ただの箱ではなく、一緒に活性化していく、岡谷の文化の宝、誇りにしていくためには、行政だけではなく利用している市民の声も必要。
- ・建物ではなく、各施設でどのような人たちが、どんな活動しているのか、どのような想いで文化を繋いでいるのか、活動している実態を掴んでいただきたい。
- ・スポーツ分野も含め、市民の活動内容を把握していただきたい。
- ・音楽活動をしている。地域と学校が連携した音楽活動の取り組みを検討してもらえないか。

【基本目標 人が集い、にぎわいと活力あふれるまち】

- ・事業承継問題についてよい技術があるのに引き継げない。行政で調査等に力を入れて頂きたい。
- ・施策展開の方針の中で「集積するメリットを最大限生かした」とある。明確に見えれば良いと思う。
- ・超零細企業の割合が多い状態。そうした企業をこれからどうするかが一番大きな課題。それに対して、はっきりした路線を出していかないといけないと思う。
- ・小売・サービス業は人が足りなくて困っている。自動レジや無人レジなどが登場しているため、人手不足をどのように解消していくかが大きな課題。

- ・外国人労働者が岡谷の工業を支えているのも現実。外国人労働者の受入を進めていくことが人手不足の解消にもなる。そうした点を第5次岡谷市総合計画の中で考慮すべきかと思う。
- ・商業活性化計画のようなものを策定していただきたい。今回それが実際に進んでいくとすれば、この中にも個別計画として商業活性化計画を掲載すべきだと思う。
- ・K P Iの年間販売額について、地域店の売上を把握することができれば、それを成果指標とすれば良いと思う。大型商業施設の売上が入っていないとすれば、たぶん80億とか目標100億と言われているので、その数字が反映されていないと、5年後の数字が低い数字になると思うため、しっかり検証していただきたい。
- ・商業では主な取り組みに「創業者の支援」が掲載されているが、工業では創業者支援に関することが掲載されていない。ハードルが高い分、ぜひとも目標にしていなければならない。
- ・テクノプラザおかやは、非常に駅に近く良い場所にある。その横に駐車場として使っているララオカヤ。このあり方を考えていかないと。
- ・岡谷小学校の跡地について、観光に結びつけられるような、まちづくりのひとつとして活用することを検討していただきたい。
- ・主な取り組みの4番目に「湖内環境の改善」とあるが、湖周や県と連携で取り組まなければならないこと。具体的な事を盛り込んでいただきたい。
- ・旧市役所庁舎は歴史的建造物として、岡谷ブランドを発信するには非常にふさわしい場所。ぜひ何らかの取り組みを行うべきだと考える。
- ・ブランドブックをみると、湖畔がすごく綺麗になるイメージとなっている。成果指標では2023年度までに28件中20件まで終了となっているが、主な取り組みの中では湖畔周辺に関する項目としてない。前期では湖畔に関して手を入れないのか。
- ・情報の発信はSNSを含めこれから難しくなっていく。情報発信の研究と実行に注力していただきたい。
- ・海外の人が日本を見る目は、日本人が見る目と全く違うため、あえて外国人を招聘して発信も含めて発掘してもらおうということにも取り組んでほしい。
- ・サービス業も含めて、人材の定着、辞めないという部分でいうと、技術面だけではなく人間力、基礎的な部分ところも育成していかないといけないのが現状。表記していただくと、サービス業の方も少し活用できると思う。
- ・工業、商業、農林漁業のどの業種でも共通する課題として、小規模事業者の廃業があげられた。地域内の人材だけでなく、外部からの移住促進と結びつける可能性を探る価値はあるのでは。条件として、仕事（廃業事業者）と住居（空き家）を組み合わせる具体的な情報発信をし「岡谷に住んで働く挑戦」をする人材を全国から募ってみる価値はありそう。

【基本目標 安全・安心で、自然環境と共生するまち】

- ・防災無線などの見直しを行ってほしい。地域の方からの声が多い。
- ・高齢者の方々に対する安否確認や避難誘導等について、各地域の地域サポートセンターの活用を図ることを施策の中に盛り込んでいただきたい。
- ・第4次岡谷市総合計画では地球環境対策が一つの項目として一番はじめに記載されているが、第5次岡谷市総合計画では自然環境の保全の中に入っている。さらに第4次岡谷市総合計画では、地球環境対策のなかの最初の項目に地球温暖化防止が掲げられているが、第5次岡谷市総合計画ではまとめられてしまっている。
- ・ヒシの除去を市民環境課で実施しているが、2時間程度で回収できる量はわずか。デモンストレーションとしては良いかもしれないが、根本的に県や諏訪市、下諏訪町、漁協などと連携してヒシを除去するなどの取り組みが必要ではないか。施策の中にそうした観点を盛り込んでいただければありがたい。

- ・主な取り組みの2番目、「身近な里山の保全」について、地域で「里山の会」を組織し、間伐などを行っているが、そうした事業に対する補助などが今後施策としてあるのかどうか。また、3番目に「環境教育」とあるが、第4次岡谷市総合計画を見ても内容がよく分らない。どのような教育を行っているのか。もう少し分かりやすい表現はないのか。行政の人は理解できても、市民は分かりにくい。
- ・課題に「再生可能エネルギーは太陽光発電に偏っており、太陽光、地中熱などの更なる推進が必要」とあるが、太陽光発電以外の方法があるのか。あるのであれば特長として積極的に推進し、再生可能エネルギーの積極的利用と推進をするまちという「岡谷ブランド」の向上につながる重要な要素になると思う。
- ・「広域化」という表現について、一般的に違うものをイメージしてしまうため分かりにくい。
- ・108ページの現状の3番目に「ごみの分別が定着した」というような表現があるが、定着はしているが、区の最前線をみると、分別ができていない部分がかかなりあるのが現状。「定着」という言葉になるとできているように捉えられるが、実際は違う。例えば主な取り組みの6番目にある「衛生施設の維持管理」はルーティンワークであるため、わざわざ記述せず、ごみ処理に対する記述を記載したらどうか。
- ・人口減少もあるため、なるべく他のところから来ていただく方には、土地の取得に関する助成等の施策でカバーしていく必要があると思う。
- ・成果指標が住宅の耐震だけ書かれていて、住宅環境の充実みたいなものがないような気がする。政策12で住宅政策を謳うのならば、目標としてはあったほうが良いのではないか。最終的な取り組みや目標にどのようにつながるのか、非常に見えにくい。
- ・レッドゾーン区域など危険なところに住んでいる人について、空き家に移住してもらえればと考えた。

【基本目標 快適な生活を支え、住み続けたいまち】

- ・駅周辺の活性化について、具体的などころにまで、それが分かるような、見えるような方向で持っていったらいい。総論だけではどうにもならない。
- ・K P Iの設定について、満足度ではなく「不満足度」を減少させるという方法により、市民のみなさんが満足していないところを改善していくべきではないか。
- ・岡谷駅周辺、駅南側の土地開発について、機会があれば改めて提案したいと考えているが、市営住宅が良いと思う。災害にも強い、上下水道を備えた市営住宅を新しく作る。様々なパターンの住居を作ること、市外からの移住も視野に入れ、子育て支援や高齢者等の生きがい等をゆるやかにつなぎ、「遠くの親戚より近くの他人」のような、互助・共助のまちづくりのモデルになればと考えている。
- ・J Rの高速化と複線化について、岡谷市が声を大きくしてアピールすることも必要だが、ものすごく大きな問題。これをどうやって進めていくのか。ここに書くだけではなく、東京都、山梨県、長野県も関係するため、その中でどう取り組んでいくのか。非常に難しいことだとは思いますが、攻めていただきたい。
- ・カーナビがなくても、わかりやすいまちにすることが、ひとつの考え方。
- ・折角あるのに使わないのか、使い勝手が悪いから使わないのか分からないが、赤字路線であっても継続していただかないと、余計に利用者が減少し悪循環になると思われるため、ご配慮を頂きたい。
- ・待合所に屋根がないため、暑いときや雨の日が困る。一方で建物の中にいると、高齢者であるため、バス停まで出てくるには時間が掛かってしまう。屋根を付けて頂いたらありがたいとの話を聞いた。高齢化が進むため、やさしいまちづくりに向けて、取り組んでいただくとありがたい。
- ・適切な料金を徴収していかないと、最終的には行政の負担になる。福祉のほうに回るのはあまり言わないが、水道料金が上がることには理解をいただきにくいので、常に市民のみなさんにPRをしていただけたほうが良いと思う。

- ・耐震化に60年から70年かかるとのことで、やはり老朽化している時に、万が一何かあった時、火災があった時に水が頂けないというところがありますので、急がすわけではないが、古いところから順次替えていっていただきたい。
- ・消火栓を減らす方向でいるようであるが、できれば維持、若しくは新しく替えていただくような形で進めていただければ、ありがたい。
- ・ホームページを見なければいけないというのは、市民の義務ではない。掲載してあるからいいということでははく、しっかりPRをしていかないと。どんな戦略を練られて、それが市民のみなさんに周知できるのか、何らかの方法を考えていただきたい。
- ・人口減が一番大きな問題。魅力的なまち、他市から流入してくるような、インフラ整備など、人口が増えれば商業も生まれるし、雇用も生じてくるため、魅力的な住まいが基本になるのではないかと思う。

【基本目標 みんなでつくる、確かな未来を拓くまち】

- ・地域おこし協力隊、岡谷の若者とか、もっと興したいという人間を集めて、既存の取り組み以外も研究したほうがいいと思う。
- ・市民総参加のまちづくりについて、団体にはそれぞれ特徴があるので、その団体等に広く協力してもらえらるような試み、挑戦をしてみてもいいかと思った。
- ・行政評価について、本当は全ての事業で市民の関係者の評価が必要だと思う。評価の部分についてやり方を考えていただきたい。
- ・広告収入という考え方の中で、カノラホールでネーミングライツのようなものは考えられないか。
- ・「財政の硬直化」という言葉は、50年前からある。少子化だけが原因で財政が硬直化しているわけ無いので、少子化、高齢化で財政が硬直化はイメージがあまりよくない。「硬直化」という言葉を違う言葉に変えていただけないか。
- ・「市税などの納期内納付の推進」というふうに、対応策の一番初めにくと市民は収納率が下がってしまったと市民は思う。順番を変えていただけないか。
- ・旧庁舎の活用方法について、さまざまな方法を考えてやるべきだと思う。
- ・「ICT」という言葉は理解をされているという前提なのか。解説を付けていただきたい。標題のような形になっているので、通常用語解説と別の形で、見てすぐに理解していただけるような出し方をいただければ。
- ・横文字が多い。注意書きが多くなってもいいので、解説を付けていただきたい。
- ・諏訪東京理科大学について、6市町村立の公立になりチャンスだと思う。諏訪全体の大学というものになっていって欲しい。その中で岡谷も是非どんどん関わって欲しい。

第5次岡谷市総合計画に対して寄せられた意見（パブリックコメント）

2次産業従事者がH17年14,535人に対し、27年13,684人と851人の減少は由々しい問題である（全国平均を上回っているとはいえ）。長年産業集積地として精密・電子に加え、新規成長産業への参入を図って来た本市として、更に強力な施策が必要とされる。先ず財源の確保として健全財政面からして、新規枠はかなり難しい。最近の地震・台風を見ても災害がいつやってくるか分からない。これからの財源確保の一つとして財政全体を見直し、当時は必要とされた補助金事業も、時代の変化に合わせた厳格な検証が要求される。時代の流れに沿って全廃又は一部廃止という荒治療も止むを得ない。これは市政全般について従来から出ている課題でもある。

- 1 多様な技術を持つ企業が集積している本市として、前々から航空機産業分野へ参入してきた。周知の通り、飯田市多摩川精機(株)が全国に先駆けて着手し、かなりの実績を挙げて来た。長野県としても大変誇りである。岡谷・諏訪地区においても地域活性化の実行を上げるためにも航空機参入が緊要だった。本市は伝統的にも新しいものを受け入れて来たし、最近話題のAI（人工知能）の利用にしても幾つかの市内企業は十分な下地を持っている。世間の価値観が著しく変化している中で、この頃では新製品が要求され更新のサイクルも早い。システム分野に次いで、航空機のメンテナンス関連のフォーラムが開かれている。市内企業の持つ高技術が埋もれることのないよう、新事業に取り組んでいただきたい。

岡谷市議会 岡谷市基本構想特別委員会委員

平成 30 年第 2 回岡谷市議会定例会 平成 30 年 6 月 22 日設置

委員長 大塚 秀 樹

副委員長 今 井 秀 実

委 員 今 井 義 信

〃 早 出 一 真

〃 渡 辺 雅 浩

〃 笠 原 征三郎

〃 中 島 保 明

〃 藤 森 博 文

〃 遠 藤 真 弓

〃 笠 原 順 子

〃 今 井 康 善

〃 小 松 壮

〃 八 木 敏 郎

〃 浜 幸 平

